

子ども発達学科准教授 安部 孝

1. 研究活動

【著書】			
<p>「知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド」</p>	<p>2011. 5 発行</p>	<p>株式会社 同文書院</p>	<p>「2 幼稚園・保育所実習」を執筆。 保育者養成における学生が幼稚園や保育所、そして児童福祉施設で実習を行う際の、事前・事後指導をはじめ、実習の様々な場面においても学生が独習可能なテキストとして執筆・編集されている。 特に安部は、幼稚園・保育所実習についての内容を担当する。実習課題や目的の立て方や考え方、指導案の書き方や幼児教育・保育における今日的課題でもある、特別支援、認定こども園における理解や実習の取り組み・観点をも採り上げている。 共著 編著 石橋裕子 執筆者／石橋、林、神戸、安部、石本、浅倉、梅澤、堀、森田</p>

「自ら学ぶ道徳教育」	2011. 12 発行	保育出版社	<p>「第4章5節 幼・小・中連携による道徳教育」を執筆。</p> <p>保育者にとって幼児期における幼児の道徳性の芽生えを培うための援助や環境構成を行うことは不可欠であり、そのことは今日の重要な教育課題でもある。子どもは地域社会の中で成長しており、もともと子どもの成長や地域社会はつながっている。そこでこのつながり・連続性に着目し、近隣の保育所や幼稚園、小学校や中学校が協力し、また、地域を巻き込みながら子どもの育ちを促し見守るような教育を構想することが大切と言える。本節の「1. 発達と学びの連続性をふまえた道徳教育」では、発達と学びの連続性と道徳教育・心の教育の関係の意味を明らかにし、具体的な考え方や取り組みを説明した。また、「2. 幼児、児童、生徒、各段階の道徳教育」では、各学校種における道徳性に関する発達段階を説明し、各段階での望ましい道徳性の育成のあり方を示した。その中では、具体的な事例を挙げ、幼稚園、小学校、地域社会の連携によって、子どもの育ちを見取るシステムを構築することの必要性を述べた。</p> <p>共著 編著 押谷由夫 執筆／安部、貝塚、越後、秋山 ほか</p>
「保育者養成シリーズ『保育・教育課程論』(研究・執筆・校正) ※7月16日最終校正終了	2012. 8 (発行予定)	株式会社 一藝社	<p>「第9章 幼児の指導計画の実際(幼稚園)」幼稚園教諭・保育士養成に関わる、幼稚園・保育所の教育・保育課程についてのテキストの一節を執筆。</p> <p>指導計画の意義や作成手順を事例を取り入れながら提示し、さらに日常の園生活の中で必要とされる保育場面を指導案に示した。特に、今日の保育を構成する上で欠かせない、地域との関わり、全園で行う活動などを愛子幼稚園、加須市立樋遣川幼稚園の活動例を参考に指導案に再構成した。</p> <p>共著 監修 林・谷田貝 編著 高橋弥生 執筆／安部、五十嵐、岩崎、西本 ほか</p>
【研究論文】			
「保育者養成における『心の教育の課題』2 ～展開の構想における困難性～」	2012. 3	「名古屋芸術大学 研究紀要 第33巻」 名古屋芸術大学	<p>幼児期からの道徳性の育成は今日的教育課題であり、同時にそのことは「心の教育」の実践力の養成が、保育者養成における重要な課題であることを意味する。しかし、将来保育者として子供の育成に関わる学生たちや教師たちの、「こころの教育」に対する内面的な事実をどのようにとらえているのかについて目を向けていく必要があるだろう。そこで本</p>

			<p>研究では、「保育者養成における『心の教育の課題』1～展開の構想における困難性～」の考察を通して明らかになった心の教育が内包する困難性の意味について考察した。その際、学生の考察を手掛かりに、事例の出来事における「立場」「かわり」、事例の「検討者」「当事者」など困難性の意味を検討した。</p> <p>単著</p>
<p>「基本的な生活習慣」の指導についての考察1 —保育者養成における学習視点—</p>	2012. 3	<p>「名古屋芸術大学人間発達研究所年報 第1巻」 名古屋芸術大学人間発達学部人間発達研究所</p>	<p>学生は幼稚園での実習を通して、保育や保育環境の特徴としての日々の指導の積み上げの場面に遭遇し、その取り組みの成果に気付く。学生たちは、まず、そこで日常営まれている生活に出会うのである。学生が、毎日実習を振り返る日誌に記述される保育の流れは、まさに意図され、指導が工夫された生活場面の展開と理解することができる。子どもと生活を共にするためには生活の内側に関心を持ち、その生活と子どもを理解することは不可欠である。そして、子どもたちや集団の育ちそのものともいえる生活に関わる習慣やそこに見られる様式は実習生としてまず見取り、理解すべき重要な学習視点であると考えられる。そこで、本研究では、保育における「基本的な生活習慣」の指導に焦点を当て、それに対する学生の抱くイメージと保育者の抱くイメージとをそれぞれ整理、比較し、さらに、実際に保育者の指導やその意図を探り、学生の実習への取り組みに際しての学習課題を解決する学習の視点・手掛かりについて考察する。</p>
<p>道徳教育の教育哲学的批判 (仮題)</p>	2012. 3	<p>継続研究中 (筑波大学総合人間科学研究科にて)</p>	<p>今日の道徳教育の根本課題を明らかにし、仏教思想を手掛かりに解決の糸口を探る。</p>
<p>【研究発表】</p>			
<p>平成23年度 日本保育学会 第64回大会 「基本的な生活習慣に関する指導についての課題(1)」—実習に臨む学生の学習視点として—</p>	2011. 5	<p>日本保育学会 於：玉川大学</p>	<p>幼稚園での実習を通して、学生たちはその保育や保育環境の特徴としての日々の指導の積み上げの場面に遭遇し、その積み上げの成果に気付く。実習生にとってこうした生活の流れとなり、子どもたちや集団の育ちそのものともいえる生活習慣や様式は重要な学習視点である。そこで、本研究では、保育における「基本的な生活習慣」の指導に焦点を当て、それに対する学生の抱くイメージと保育者の抱くイメージとをそれぞれ整理、比較し、さらに、実際に保育者の指導やその意図を探ることで、学生の実習への取り組みに際しての学習課題を解決するひとつの手掛かりについて考察した。また、保育者にとって基本的な生活習慣の指導を行うことの意味を追求しながら、改めて保育者の役割についても考察した。</p> <p>単独 (口頭発表) (「第64回大会 発表論文集」p.63)</p>

<p>日本教育学会 第70回大会 「保育者養成における『心の教育』の試み3」 - 道徳教育の困難性 -</p>	<p>2011. 8</p>	<p>日本教育学会 於：千葉大学</p>	<p>本研究では、「同研究2」で明らかになった心の教育における課題から、道徳教育がそもそも内包する課題に目を向け、保育者の心情や保育場面における「困難性」として検討した。その結果、「優しさ」が「困難」への対応や、それを生み出さない心の様子や価値として理解されることや、出来事を価値について見取るとき、「困難」や「優しさ」への「無自覚」が生じるということ、そして、出来事の当事者か否かなど、事例（ある場面）における輻輳した“かかわり”があることが、道徳教育の困難性の意味（由来）として理解された。 単独（口頭発表） （「第70回大会 発表要旨集録」pp.254-255）</p>
<p>全国保育士養成協議会 第50回研究大会 「保育実践力を培う実習指導の展開1」 ～「学び合い」の意味～</p>	<p>2011. 9</p>	<p>全国保育士養成協議会 於：富山県民会館</p>	<p>自身が担当する幼稚園実習の事前事後指導（実践研究幼稚園）における、学習の振り返りと学び合いを通して得られた成果と課題を、保育者の資質形成の手立てという視点から整理し、報告した。学生は仲間や先輩に実習で経験した「保育や保育者」について伝えることを通して、「理想の保育（者）像」を描きだし、具体的な身振りや手振りや語り口など身に付けていることに気が付くことができた。また、1年生の不安が由来する「未経験」はある種の自己課題を明らかにし、それを解決する手掛かりとしての「先輩」が、実習で出会う保育者の存在になぞらえながら学習できる機会となった。 共同（ポスター） （「第50回研究大会研究発表論文集」pp.172-173）</p>
<p>日本道徳教育学会 第78回大会 保育者養成における「心の教育」の課題3 ～「立場」の問題としての「困難性」～</p>	<p>2011. 11</p>	<p>日本道徳教育学会 於：武蔵野大学</p>	<p>「同研究2」では、「心の教育」の課題を洗い出し、実習経験を基に学生が構想した。「心の教育」の展開における「困難性」について、学生の「気付き」を視点に検討した。本研究では、「困難性」の克服を目標とした学生の考察を手掛かりに、「心の教育」が内包する「困難性」の意味を明らかにし、保育者養成における「心の教育」の課題について考察した。その結果、困難と思われる状況（他者）への行為に「優しさ」（価値）を見出すのは、「当事者」の「立場」が明確であるからということ、また、状況の困難についての理解は「立場」によって異なり、とくに構想にそのねらいがある場合、「かかわり」や出来事の推移の中で「立場」が輻輳し、時には入れ替わる「立場」やそれに伴う「困難」の理解の仕方が課題になることが分かった。そして、道徳的心情や実践の育成では「いたたまれない思い」や「自他の利の一致」が期待され、その根拠と、それを基点とした行為の選択について検討する必要があると考えた。 単独（口頭発表） （「プログラム・発表要旨集」pp.64-65）</p>

【その他の活動】			
名古屋芸術大学 人間発達学部 「1日限りのお仕事発見 幼稚園教諭・保育士体験」	2011. 7. 25 7. 26	於：名古屋芸術大学	高校生体験学習 講師 講話：「大学の先生のお話 『先生になること』」
北名古屋市「人形のまち北なごや」 2011 パペットフェスタ」	2011. 8. 20 8. 21	於：北名古屋市文化勤労会館	主催：北なごやパペットフェスタ実行委員会 北名古屋市教育委員会 会場装飾協力（装飾活動、協力学生〈保育内容演習Ⅱ〉指導）
名古屋芸術大学 人間発達学部 人間発達研究所 「子育てワークショップ ミニミニ講座」	2011. 11. 16 12. 8	於：名古屋芸術大学	ワークショップ参加母親対象講話 テーマ：「たべること」
【出前講座（進路対策）】			
愛知県立天白高等学校 2年生：保育系進学希望者対象 模擬授業	2011. 10	於：愛知県立天白高等学校	講師 「保育者の仕事…子どもを理解することから」
愛知県立一宮興道高等学校 2年生：保育・幼児教育系進学希望者対象 模擬授業	2011. 11	於：愛知県立一宮興道高等学校	講師 「保育・幼児教育の仕事」
愛知県立松蔭高等学校 1年生：保育・幼児教育系進学希望者対象模擬授業	2012. 3	於：愛知県立松蔭高等学校	講師 “保育・幼児教育 初歩” ～子どもの味方と見方～

2. 教育活動（教育実践上の主な業績）

大学院授業担当 有 無

授業科目 保育内容総論	
<input type="checkbox"/> 前期 ◆後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
専門職としての現職能力の基本的資質を養うために、保育、保育現場に関わる概念、用語などの知識についての確認の小試験を実施。 場面对応についての話し合いなどを取り入れた。	テキストのほかに独自にワークシートを準備した。
授業科目 ゼミナールⅢ	
◆前期 ◆後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
3年生対象。ゼミとして通年で担当。教育実践力を身につけるための一手立てとして、学外授業を計画し、学外講師による音楽・表現・子どもの歌、手遊びなどの学習の機会を設けた。	特に、全国保育士養成協議会関東ブロック学生研究発表会の発表要項・資料集などを手掛かりに、卒業の研究テーマや、「心の教育」の考え方などを学習した。

授業科目 保育内容演習Ⅰ・Ⅱ	
◆前期 ◆後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
<p>保育場面における、生活指導や朝の会などの計画、指導案化、シミュレーションを行った。</p> <p>保育場面の一部を部分指導案に表し模擬保育を行い相互評価を行った。</p> <p>北名古屋市、バベット・フェスタの装飾準備などを通して、教材研究や保育技術について学ぶとともに地域の方々と交流を持った。</p>	
授業科目 幼稚園教育実習指導（1年生）	
◆前期 ◆後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
<p>特に保育・現場における事例を取り入れた授業の展開。クリエ幼稚園における保育の様子を知らせ、そこから課題意識を高めるなど工夫した。</p> <p>…保育場面対応や職員との関わりについての考察など各自反省をまとめ、また、グループごとに学習成果を基に、保育指導案を作成し、保育場面を表現し「学び合い」の場を持った。</p>	<p>テキスト以外に独自のワークシートを作成し使用した。</p> <p>「学び合い」では、指導計画を作成し、さらに表現の後には相互評価を行った。</p>
授業科目 保育指導法Ⅰ	
□前期 ◆後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
<p>テキストを基にして、「場面対応」について考察させ、発表させたり、討議させたりした。</p> <p>指導計画には書かれていない、保育者の配慮としての潜在的な計画についての話を授業の導入に用いた。</p>	<p>DVD</p> <p>保育に関する写真等</p> <p>テキスト以外に独自のワークシートを作成し使用した。</p>

3. 学会等および社会における主な活動

【所属学会】		
日本保育学会	（会員）	2006年～（現在に至る）
日本教育方法学会	（会員）	2006年～（現在に至る）
日本教育学会	（会員）	2006年～（現在に至る）
日本教師教育学会	（会員）	2007年～（現在に至る）
日本道徳教育学会	（会員）	2008年～（現在に至る）
身延山大学仏教学会	（会員）	2007年～（現在に至る）
日本仏教教育学会	（会員）	2010年～（現在に至る）
教育哲学会	（会員）	2010年～（現在に至る）